

英語科授業指導案

学校名：和歌山市立城東中学校

授業の概要	
授業日時・学年・教科・単元名等	
授業日時：平成25年 6月12日 5時間目 学 級：2年3組 (男子11名 女子15名) 単元名：Unit 3 My Future Job ICT支援員によるサポート <input checked="" type="checkbox"/> 授業中 <input checked="" type="checkbox"/> 事前	
単元・題材の目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞の形と意味、用法について理解し、運用できる。 ・将来の仕事について意見を述べた文を読み、内容を理解することができる。 ・自分がやってみたいことや将来のことについて生徒同士で話し合える。 	
単元全体の流れ	
この単元では、生徒たちが、前半で不定詞のそれぞれの用法を用いて、目的や希望、すべきことについて理解し、後半でウェブページを読み、自分で作成するような設定になっている。	
本時の中心となる授業形態	
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習	
本時の目標（評価の観点）	
自分の欲しいものややってみたいことを不定詞の名詞的用法を用いた英文を使って、相手の共感を得られるような自己表現ができるようになる。	

情報通信技術の活用	
活用した場面	
<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用した者	
<input checked="" type="checkbox"/> 教員 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒	
活用する目的	
<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示 <input type="checkbox"/> 動機付け <input type="checkbox"/> 興味・関心の創出 <input checked="" type="checkbox"/> 目的や目当ての明確化 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の説明 <input type="checkbox"/> 生徒による説明 <input checked="" type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input checked="" type="checkbox"/> 典型例の提示 <input type="checkbox"/> 創作活動 <input type="checkbox"/> 失敗例の振り返り <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input type="checkbox"/> 体験の代行 <input type="checkbox"/> 比較 <input checked="" type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用したコンテンツ	
デジタル教科書（IWB） Power Point Marnavigation インターネット辞書	
活用した機器	
<input checked="" type="checkbox"/> IWB <input checked="" type="checkbox"/> タブレットPC <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> その他（ ）	

※情報通信技術の活用のうち、本時におけるポイントとなる活用について主なものを回答すること。

1. 本時の展開

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
<p>本時の目標を確認する</p> <div data-bbox="167 280 539 421" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>to + 動詞の原形を使って自分のやりたいことを表現しよう</p> </div> <p>画面を見ながら不定詞の副詞的用法を口頭で練習する</p> <p>IWB の画像から「～したい」という気持ちを表す方法を知る</p>	<p>授業の最後には目標が達成できている自分をイメージさせる</p> <p>IWB に画像を写し質問する 授業の最初なので大きな声を出せるよう支援する</p> <p>本時の内容について説明する 必要に応じてヒントを出す</p>	<p>IWB (PowerPoint)</p> <p>IWB (PowerPoint)</p>
<div data-bbox="167 719 635 1041" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: He is saying something. What is he saying? S: しんどい。暑い。 T: So, what does he want to do? S: 飲み物 雨 T: In my opinion, he says “I want to drink water.”</p> </div>	<div data-bbox="689 734 1098 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>板書 「～したい」 I <u>want to drink</u> water. I <u>want to eat</u> some more. I <u>want to go</u> to bed.</p> </div>	
<p>ノートに板書を書く</p> <p>教科書 P23 の新出単語を練習する</p> <p>ピクチャーカードを見ながら本文を聞く</p> <p>本文を読み、ワークシートで内容を確認する</p> <div data-bbox="167 1525 576 1704" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>さくらのしたいことは？ さくらのなりたい職業は？ ベッキーのやりたいことは？</p> </div> <p>答えを日本語で書く 音読練習をする ・ 指し読み ・ 単語抜き読み</p> <p>グループでワークシートに取り組む</p>	<p>key sentences を板書する IWB にデジタル教科書の新出語句ページを映し大きな声で練習するよう促す 声が出る姿勢をとらせる。</p> <p>英語で質問する What does Sakura want to do? What does Sakura want to be? What does Becky want to do?</p> <p>画面に集中して音読できるようにする</p> <p>例を挙げて簡潔に指示する 机間支援をしながら必要に応じて支援する</p>	<p>IWB (デジタル教科書)</p> <p>タブレットPC (必要に応じて辞書として)</p>

<p>タブレットPCを辞書として利用する 英文ができたなら英文の読み練習し、発表の準備をする</p>	<p>あきらめてしまう生徒がないよう、それぞれに役割を持たせる グループ内で協力するよう指導する</p>	
<p>できあがったスキットを聞く</p>	<p>できているグループのワークシートを紹介する</p>	<p>書画カメラ(プリントを拡大投影)</p>
<p>本時の目標を達成できたか振り返る</p>	<p>聞く態度にも留意させる</p>	
<p>Marnavigationの質問に答える</p>	<p>Marnavigationを使って生徒に質問する</p>	<p>タブレットPC (Marnavigation)</p>
<p>宿題の確認</p>	<p>目標は達成できたか確認し、達していない生徒には支援をする</p>	
<p>次回各グループで作った英文を覚えて発表するので練習することを確認する</p>		

<協働学習の実施状況>

- 生徒が相互に教え合う場面があった
- 数名が一緒に学び合う場面があった
- 数名が協力したり助け合ったりする場面があった
- 数名が話し合う場面があった
- 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった
- 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった
- ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

(1) 活用のねらい

PowerPoint・日本語を介さず画像から直接英語の発音練習させるため。
デジタル教科書・教科書の内容に合ったピクチャーカードを見せることで生徒の理解を助けるため。
・本文の一部を隠して音読させることで、隠された単語が何かを考えられるようにするため。
インターネット辞書・英文作成のためにすぐに必要な情報を得られるようにするため。
Marnavigation・生徒が本時の目標をどの程度身につけられているか確認するため。

(2) 活用により期待される効果

時間をかけずに生徒にさせたい活動ができるのでより充実した活動ができる。リアルな画像を見せることができるので生徒の興味関心を高めることができる。インターネット辞書を使って必要な情報をすぐに得ることができる。Marnavigationを使って教わった内容が理解ができているかどうかをその場で確認できる

3. 実践上の課題

ペンがきかない、ネットにつながらないなど機器のトラブルが起こると活動が止まるので事前の準備を十分に行う必要がある。それでも起こるトラブルには

ICT支援員の助けが必要になる。

授業に関係のない時にタブレットのお絵かき機能やインターネットで遊んでしまう生徒がいるので、授業でのICT機器の使い方や規律をきちんと身につけさせる必要がある。

IWBは画面と換えられるのが利点である。授業中ずっと残しておきたい文言は板書するなどIWBやタブレットだけに頼りすぎない授業をすることにも留意したい。

※本報告は、2頁を超えて作成しても構わない。

※本報告とあわせて、授業の動画や写真を提出する際は、Webでの公開など広く使用されることも考えられることから、保護者の了解を得るなど必要な対応を行うこと。